

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H02240

研究課題名(和文)文化としての社会主義：北東アジアとDPRK

研究課題名(英文)Socialist culture: Northeast Asia and DPRK

研究代表者

前田 しほ (Maeda, Shiho)

島根大学・学術研究院人文社会科学系・准教授

研究者番号：70455616

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,020,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、北東アジア地域において、近代化モデルとしての社会主義が文化としていかに展開したかという観点から、朝鮮民主主義人民共和国に注目した。ソ連、中国などの近隣の社会主義国との比較を並行して行い、文学、映画、絵画、記念碑などの資料収集、文化コードの解析に取り組んだ。パブリックな文化表象、例えば、革命家像、戦士像、指導者像、労働者像、女性、子供、否定的人物像を分析し、ナショナルな物語の体系化を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

DPRKの公的刊行物や公共イメージは、一般的にプロパガンダとして物笑いの種になったり、学術的論考に値しないと切り捨てられる傾向にあった。他方、ソ連研究では公的言説やプロパガンダは文化的構築物として学術的な研究対象となってきた。そこで、ソ連・中国の事例を参照しながら、ナショナルな物語として比較検討した。朝鮮問題研究センターと協力して、連続講座や研究会をオープンに開催することで、日本人研究者と在日朝鮮人研究者との間で、分野横断的な研究者コミュニティの創出を図りながら、最終年度には成果報告書として論文集『社会主義の文化的景観：DPRK、ソ連、中国』を刊行することで、研究の成果を社会的にも還元をした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this project is to examine the socialist modernization culture in the northeast Asia. Particular attention was paid to North Korea while comparing it with other socialist countries such as the Soviet Union and China. We collected publications and public image related to revolutionary, combatants, leaders, workers, women, children and antiheroes, and tried to elucidate structure of the national narrative.

研究分野：ロシア文学

キーワード：DPRK 社会主義的近代化 ジェンダー 英雄 プロパガンダ 文化

1. 研究開始当初の背景

本研究開始時点では世界的に排外的ナショナリズムが高まり、日本でも朝鮮民主主義人民共和国（以下 DPRK と略す）に対する排外主義的態度が顕著だった。ニュースキャスターの原稿読み上げの口調・文言から、指導者イメージ、都市建設、軍事パレードに至るまで、あらゆる事象・事柄が、「北朝鮮」特有の政治プロパガンダと一笑に付され、「理解しがたい」、「怖い」圧政や独裁のイメージが作り上げられた（そして、この傾向は今日も続く）。1970年代以前の「地上の楽園」としての肯定的イメージはすっかり忘れ去られた。これらの現象は対極に見えるが、実のところ、肯定的であれ、否定的であれ、一方的な他者イメージを生成したのは、日本社会内部のナショナルな欲望である。

北東アジアは資本主義 / 社会主義のイデオロギー対立が未だに残る世界でも稀有な地域である。だからこそ、警戒すべきは、それを利用して、外部に（仮想）敵を作り出し、敵意や恐怖を煽ることでコミュニティ内部の団結を高め、国民統合を強化しようとする動きである。

冷戦時代に仮想敵国とされたのはソ連であった。ソ連の崩壊と冷戦の終焉に伴い、新たな仮想敵国となった DPRK に対しては、攻撃的な言説が特徴である。「強大」な核武装国家であったソ連に対する態度が慎重であったこと裏腹である。加えて、朝鮮半島に対する植民地主義的な差別感情が加担していることが推測されるが、本研究では踏み込まなかった。本研究は冷戦のイデオロギー構造に注目し、文化コードとその文脈を明らかにすることで、平和と多文化共生に向け、隣人=他者を理解（しようと努力）することを理念としてスタートした。

2. 研究の目的

幸い、軍事衝突に至っていないが、冷静さを欠いた報道や言説によって、DPRK に対する「なんだか怖い」という他者イメージは繰り返し流布され、強調されてきた。人文科学は往々にして、役に立たないと揶揄されるが、実のところ、異文化を理解し、他者と共存する方策を探る上では有益な学問である。本研究は、「理解しがたい」「訳が分からない」と、無理解と恐怖を放置するのではなく、DPRK の文化が、社会主義イデオロギーに基づき、ソ連の様式を反映し、なおかつ地域独自の事情や生活習慣・民俗を取り入れて発展したことを学術的検証によって明らかにする。

20 世紀のアジアでは、社会主義は資本主義や植民地主義に抵抗しながら、近代化と独立を果たしうる近代化モデルとして広く受け入れられてきた。社会主義イデオロギーは文化政策にも影響を及ぼし、長期にわたって政権が維持された場合、例えば、DPRK、中国、モンゴル、ベトナムでは、伝統的技法と結びつきながら、現地化した。ロシアで誕生し発展した社会主義の文化は、アジアで広く近代化のモデルとして取り入れられ、一定の普遍性がありながら、地域によって独自の変化を遂げたのである。

そこで、本研究は、ソ連、中国、DPRK、そして日本の北東アジア地域を研究対象地域と定め、第一に、文学、映画、絵画、記念碑等の文化的表象や公的プロパガンダの観察、資料収集、および文化コードの分析と考察を第一の目的とした。第二に、ソ連・中国から DPRK へのイデオロギー、文化コード、制度、ヒトの移動を明らかにすること。第三に、日本の社会主義運動のイデオロギーが朝鮮半島に流入した動きに注目し、その経緯と芸術の流入過程を明らかにすること。最後に、ほかの社会主義国とも比較して、広い視野を養うこと、以上 4 点を研究活動の中心と定めた。

3. 研究の方法

地域間比較研究を行う際の問題は、伝統的研究者コミュニティが、研究対象とする国家・地域あるいは言語、民族ごとにタコソボ化していることである。旧ソ連、中・東欧、中央アジア・モンゴルではそれぞれ国境を横断した学会（東欧史研究会や内陸アジア研究会など）や、共同利用・共同研究拠点（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター）がそうしたタコソボ化を打破するため、分野横断的な交流を推進していたが、限界があるのも現実である。

研究代表者前田（開始当時島根県立大学、科研終了時島根大学）と分担者高山（亜細亜大学）は、それぞれソ連、中国の戦争記憶研究に取り組んでいた。科研費プロジェクト（「社会主義文化における戦争のメモリー・スケープ研究：旧ソ連・中国・ベトナム」(2013-2017)）に携わり、現地調査や国際学会パネル組織等で協力関係にあった。国境を跨いで社会主義圏の文化を比較することによって、ソ連と中国の地域独自の展開や影響関係、あるいは地域固有の伝統が明確になった。課題は、北東アジア（あるいは東北アジア）全体で見取り図を描くには、DPRK 研究が弱いことだった。

DPRK 研究および、北東アジアという規模での比較研究は、朝鮮半島の美術史研究専門の喜多（大谷大学）を分担者として研究チームに招くことで可能になった。喜多を通じて、金真美（朝鮮大学校・研究協力者）を招き（途中から洪潤実（朝鮮大学校・研究協力者）が加わる）、DPRK の文学・映画の調査・解析ができるようになった。日本政府が DPRK と国交を結んでおらず、日本人研究者にとって現地調査は困難が伴う一方で、コリアン・ディアスポラのコミュニティは良

好な関係を保ち、留学や交流も盛んであり、現地調査や資料の入手という点で、日本人研究者よりも格段に有利である。加えて、イデオロギーの移動を、ヒトの移動、制度の移動という観点から明らかにするため、朝鮮戦争後にソ連から DPRK へ美術教育立て直しのために派遣された朝鮮系ソ連人画家邊月龍に注目し、ロシア美術史研究者である福間加容（九州産業大学美術館・研究協力者）に調査を依頼した。邊月龍は朝鮮系であるにもかかわらず、ソ連の美術アカデミーで教授に上り詰めたが、死後忘却され、近年韓国人によって再発見されていた。

以上のメンバーは、それぞれが専門的に扱う研究対象国・地域の言語に精通しており、また分野も多岐にわたる。全体的に初対面の状態だったので、信頼関係を一から養い、研究コミュニティとしての成長を図るため、年に一度は研究会と研究打ち合わせを行った。

経費の大部分を海外渡航旅費として計上し、旧ソ連、中国、DPRK（DPRK 調査については私費と他費）その他の旧 / 現社会主義国での調査を精力的に実施した。公共建築物、記念碑等の都市空間形成、美術館、博物館の展示調査、美術館・博物館・大学等の研究機関、公文書館、図書館等における作品・資料の展示、収集、遺族、関係者への聞き取り調査を行った。また、外国語による国際会議での発表として、韓国、ドイツ、中国等にもメンバーを派遣した。それらの成果も外国語論文として発表されている。

ただし Covid-19 の発生によって、2019 年度の末から海外渡航が困難となる。しばらく様子を見たが、沈静化しなかったため、活動の方向性を変え、書籍の購入やテレビ会議システムの機材をそろえ、オンライン会議による研究会や講演会を行い、専門的知見を社会に広く公開することとした。

4. 研究成果

毎年、朝鮮問題研究センター朝鮮文化研究室とも共催しながら、全メンバーが集合しての研究会を行った。労働英雄、革命英雄、女性、子ども、指導者、アンチヒーローなど、共通したテーマが見いだされ、普遍性と地域独自の展開について、知見を共有しながら、議論が深まった。具体的なプログラムは後述の通り。幅広く旧・現社会主義国の文化現象についての外部専門家も招き、知見の共有とコミュニティの形成に注力した。社会的なフィードバックとしては、朝鮮問題研究センター朝鮮文化研究室主催の連続講座、文学カフェ等では講師謝金や旅費を支出、機材提供、運営の面で協力することで、共催した。また、ウクライナ・ロシア戦争勃発後、戦争に関する一般向け講演会の依頼が増え、積極的にメンバーが登壇した。朝鮮大学校では学術機関同士の交流がこれまでもあったが、外部の研究者から成る科研費チームとの協力関係は初めてということであった。運営面で大きな協力を提供していただき、研究者交流さらにはコミュニティの創出という意味で、画期的な活動であったと内外から評価をいただいている。

科研費主催の研究会だけでなく、国内外の研究集会、学会での研究発表が多数行われ、上記でも触れたが、その成果は積極的に論文化された。繰り越しによって、2022 年度が最後の活動年度となり、2023 年 3 月に全メンバーが寄稿して論文集を科研費報告書として刊行した。

国際研究集会として、韓国・中国の研究者を招き、講演会を行った。大韓民国統一部統一教育院教授朴桂利氏によって、白頭山の風景画による DPRK のナショナル・アイデンティティ形成が指摘された。また大谷大学教授李青氏より、生活誌の側面から、中国の学校教育における朝鮮映画受容の実態について講演が行われ、文革時代には国産映画ではなく、ソ連や DPRK 映画の方が洗練され、人気があった。文化的には、中国の方が DPRK より影響を受けた実態が明らかにされた。

国際高麗学会や延吉大学の国際シンポジウムへの参加、訪朝しての社会科学院の研究者との面談など、科研費メンバーが DPRK の研究者と接触する機会も多数得た。ソ連の文化の DPRK への輸入に際して文化摩擦や反発が生じた事例を紹介されたが、福間の研究でも邊月龍がソ連帰国後 DPRK から粛清され、手紙のやりとりが絶えたことが遺族への聞き取りによって明らかにされている。

Covid-19 によって、国際的な研究組織活動や海外調査が制限されたことが大きな心残りである。とはいえ、方向性を変更することによって、活動を継続したことは評価されうると考えている。個々の国家・地域の文化現象についての資料収集や文化コードの解析は進んだ。しかし、イデオロギーや制度の移動や流入プロセスの点は十分に解明できなかった。特に、日本から朝鮮半島への社会主義イデオロギーの移動にはほとんど触れることができなかった。意外だったのは、中国から DPRK への影響よりも、DPRK から中国への影響が強く見られた点である。イデオロギーや制度のモビリティという意味で、発展の余地は大きく、今後の課題としていきたい。

研究組織活動の記録

第一回研究打ち合わせ

会場：大谷大学

日時：2017 年 6 月 17 日(土)、18 日(日)

第二回研究会

会場：朝鮮大学校

日時：2018 年 2 月 26 日(月)、27 日(火)

第一部：中国・ソ連の社会主義の文化 司会：金真美

ソヴィエトの都市空間とモニュメント 前田しほ
中国における紅色文化 高山陽子(亜細亜大学)

第二部：DPRK の社会主義の文化 司会：韓昌道
朝鮮児童映画に現れる肯定的価値と対立的空間が意味するもの 金真美(朝鮮大学校)
朝鮮の切手の世界 任正嫻(朝鮮大学校)

第三部：総合討論 司会：喜多恵美子
討論者：朝鮮の文化政策について 宋明男(朝鮮大学校)

第三回研究会

会場：大谷大学

日時：2019年2月10日(月)、11日(火)

セッション1：文学・映画 司会：高山陽子(亜細亜大学)

身体の像化と建築空間：『輝ける道』における労働英雄ターニャの身体イメージの分析
本田晃子(岡山大学)

ポーランドにおける労働英雄の表象：アンジェイ・ヴァイダ監督『大理石の男』を中心に
菅原祥(京都産業大学)

DPRK の抗日パルチザン闘士についての文学 洪潤実(朝鮮大学校)

日本のプロレタリア文学の系譜における「民衆」の位置づけ 中村唯史(京都大学)

セッション2：音楽・舞台芸術 司会：喜多恵美子

ソ連時代末期の芸術音楽：教育から演奏まで：留学時代に体験したもの 一柳富美子(和光大学)

革命バレエ『赤いけしの花』の中国受容と展開 田村容子(金城学院大学)

「金正恩時代」の音楽政治について 森類臣(大谷大学)

ラーゲリとロシアの歌：異文化接触の場としてのシベリア抑留 森谷理紗(日本学術振興会)

第四回研究会

会場：大谷大学

日時：2020年1月23日(木)

司会：喜多恵美子(大谷大学)

白頭山作品を通じて見た DPRK 美術の変化 朴桂利(大韓民国統一部統一教育院)

第五回研究会

会場：大谷大学

日時：2020年2月14日(金)

午前の部 司会：森類臣(大谷大学)

社会主義文化と儒教 高山陽子(亜細亜大学)

産業と芸術：共和国美術を中心に 喜多恵美子(大谷大学)

午後の部 司会：金哲秀(朝鮮大学校)

スターリン期プロパガンダの女性イメージ 前田しほ(島根大学)

DPRK の女性政策と「家族革命化」映画 金真美(朝鮮大学校)

DPRK 抗日パルチザン文学の女性イメージ 洪潤実(朝鮮大学校)

第六回研究会

会場：オンライン

日時：2021年2月27日(土)

司会：喜多恵美子(大谷大学)

DPRK の女性政策の変化と大衆歌謡に反映された女性像 金真美(朝鮮大学校)

コメント：北原恵(大阪大学)、李英哲(朝鮮大学校)

朝鮮労働党七回大会以降の共和国小説における否定的人物：『朝鮮文学』祝典賞受賞小説を中心
に 洪潤実(朝鮮大学校)

コメント：李青(大谷大学)、李柄輝(朝鮮大学校)

第1回連続講座「朝鮮民主主義人民共和国の大衆文化をひも解く」

会場：オンライン

日時：2021年7月24日(土)

朝鮮民主主義人民共和国の音楽：その歴史と特徴

講師：李喆雨(尹伊桑音楽研究所副所長、在日朝鮮芸術研究所所長)

第2回連続講座「朝鮮民主主義人民共和国の大衆文化をひも解く」

会場：オンライン

日時：2021年9月25日(土)

朝鮮民主主義人民共和国の舞踊：その歴史と特徴

講師：朴貞順(朝鮮民主主義人民共和国 芸術学博士・功勲芸術家、朝鮮大学校舞踊教育研究室室長)

第3回連続講座「朝鮮民主主義人民共和国の大衆文化をひも解く」

会場：オンライン

日時：2021年11月20日(土)

朝鮮民主主義人民共和国の食について：90年代から2000年代の政策転換期を中心に

講師：金貞淑(朝鮮民主主義人民共和国生物学碩士、朝鮮大学校短期学部教授)

第七回研究会

会場：大谷大学

日時：2020年1月23日(木)

中華人民共和国の学校教育における朝鮮映画受容 李青(大谷大学)

第4回連続講座「朝鮮民主主義人民共和国の大衆文化をひも解く」

会場：オンライン

日時：2022年2月19日(土)

朝鮮民主主義人民共和国の喜劇：笑いのしくみを探る

講師：金正浩(朝鮮民主主義人民共和国功勲芸術家。朝鮮大学校文学歴史学部部長、教授。1988年6月に結成された在日朝鮮人劇団「アランサムセ」主宰)

第八回研究会

会場：オンライン

日時：2022年3月19日(土)

司会：金真美(朝鮮大学校)

中国における労働模範の身体表象 高山陽子(亜細亜大学)

ソ戦の不都合な記憶：イ・グレーコワ『寡婦たちの船』の戦傷兵と不貞の妻を中心に
前田しほ(島根大学)

社会主義圏における少年の身体表象：少年団運動を中心に 喜多恵美子(大谷大学)

コメント：亀田真澄(中京大学)、平松潤奈(金沢大学)

第九回研究会

会場：オンライン

日時：2022年1月28日(土)

研究発表会 司会：喜多恵美子(大谷大学)

DPRK小説が描く朝鮮戦争とその変化 洪潤実(朝鮮大学校)

モスクワと独ソ戦の記憶 前田しほ(島根大学)

コメント：森類臣(摂南大学)、立石洋子(同志社大学)

科研費基盤(B)「文化としての社会主義」×朝大文学カフェ「文学芸術からみる DPRK」

会場：朝鮮大学校(オンライン配信)

日時：2023年2月24日(土)

第一部：書評会「ベク・ナンリョンの中編小説『友』を語る」

金真美(朝鮮大学校)、李玲実(朝鮮大学校)

第二部：講演会 金正恩時代の音楽政治の変容、わが国家第一主義とは 森類臣(摂南大学)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計38件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 喜多恵美子	4. 巻 9
2. 論文標題 千里馬運動期DPRKの美術作品にあらわれた製鉄所労働者イメージ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 コリアン・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 89-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 喜多恵美子	4. 巻 59
2. 論文標題 朝鮮民主主義人民共和国美術における女性表象	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朝鮮史研究会論文集	6. 最初と最後の頁 5-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 喜多恵美子	4. 巻 34
2. 論文標題 DPRKの朝鮮少年団表象研究（朝鮮語）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文科学研究	6. 最初と最後の頁 218-242
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田しほ	4. 巻 50
2. 論文標題 ソ連の戦争記念碑のジェンダーと地域性：母国の母と悼む母のイメージ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ロシア・東欧研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田しほ	4. 巻 37
2. 論文標題 『生きよ、そして記憶せよ』と戦争記憶：スケープゴートとしての脱走兵の妻	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 セーヴェル	6. 最初と最後の頁 5-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 31(2)
2. 論文標題 中国の烈士表象と社会主義マチズモ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際関係紀要	6. 最初と最後の頁 241-261
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 川口幸大・堀江未央編、『中国の国内移動 内なる他者との邂逅』京都大学学術出版社、2022年（書評）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ地域研究	6. 最初と最後の頁 278-281
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 9
2. 論文標題 銅像よもやま話9 シャク銅像	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際関係・多文化フォトジャーナル	6. 最初と最後の頁 42-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 30
2. 論文標題 中国における労働模範の身体表象に関する一考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際関係紀要	6. 最初と最後の頁 391-414
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 8
2. 論文標題 銅像よもやま話8 キャラ銅	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際関係・多文化フォトジャーナル	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 180
2. 論文標題 女性裸体像は何を語るのか？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ひょうご部落解放 特集アートと人権	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金真美	4. 巻 30
2. 論文標題 在日朝鮮学生たちの作文懸賞募集入選作品を通じてみる統一意識の特徴 (朝鮮語)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朝鮮大学校学報	6. 最初と最後の頁 222-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金真美	4. 巻 31
2. 論文標題 朝鮮民主主義人民共和国の女性政策の変化と大衆歌謡に反映された女性像（朝鮮語）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朝鮮大学校学報	6. 最初と最後の頁 121-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪潤実	4. 巻 31
2. 論文標題 朝鮮労働党7回大会以降における共和国小説の特徴 『朝鮮文学』祝典賞受賞作品を中心に（朝鮮語）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朝鮮大学校学報	6. 最初と最後の頁 103-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 29-2
2. 論文標題 植民地監獄における正義の語り：旅順監獄博物館の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 亜細亜大学国際関係紀要	6. 最初と最後の頁 249-269
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 7
2. 論文標題 銅像よもやま話7 模範人物の銅像	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 樞Kaya国際関係・多文化フォトジャーナル	6. 最初と最後の頁 30-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chinmi Kim	4. 巻 4
2. 論文標題 Research on Korean Popular Songs Written by Korean in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 S/N Korean Humanities	6. 最初と最後の頁 151-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.17783/IHU.2018.4.2.151	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金真美	4. 巻 28
2. 論文標題 近代少年雑誌『オリニ』の『読者談話室』研究 1930年代未発掘『オリニ』を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 朝鮮大学校学報	6. 最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 前田しほ	4. 巻 16
2. 論文標題 グリゴリー・チュフライ『泥沼』における母の愛のイメージ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ヴロツワフ・スラヴ学	6. 最初と最後の頁 99-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 6
2. 論文標題 銅像よもやま話6: 群像	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 権: 国際関係・多文化フォトジャーナル	6. 最初と最後の頁 10-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 28-2
2. 論文標題 公共空間における女性の彫像に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 亜細亜大学国際関係紀要	6. 最初と最後の頁 71-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 142
2. 論文標題 烈士陵园の景観 南部と北部の記念碑の比較から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国立民族学博物館調査報告	6. 最初と最後の頁 90-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 27
2. 論文標題 女子旅におけるアジアの表象 台北・上海・香港の事例から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 亜細亜大学国際関係紀要	6. 最初と最後の頁 49-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福間加容	4. 巻 37号別冊
2. 論文標題 帝政末期のロシア絵画におけるジャポニスム	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ジャポニスム研究	6. 最初と最後の頁 36-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 喜多恵美子	4. 巻 49
2. 論文標題 日本におけるアヴァンギャルド美術の展開と歴史的観点	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 韓国美術史学研究会『美術史学報』	6. 最初と最後の頁 30-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 喜多恵美子	4. 巻 97-2
2. 論文標題 在朝鮮日本人画家加藤松林人の活動ー自筆履歴書をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大谷学報	6. 最初と最後の頁 47-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kim Chinmi	4. 巻 8-1
2. 論文標題 Changes in Women`s Policies of the Democratic People`s Republic of Korea and Images of Women as Reflected in Popular Music	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 S/N KOREAN HUMANITIES	6. 最初と最後の頁 43-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.17783/IHU	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 金真美	4. 巻 1
2. 論文標題 朝鮮映画にみる「家庭革命化」政策の展開：シリーズ映画『わが家の問題』を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 科研費報告書「社会主義の文化的景観：DPRK、ソ連、中国	6. 最初と最後の頁 23-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪潤実	4. 巻 32
2. 論文標題 1950年代末の抗日革命闘士の典型創造事業と形象的特徴について：短編小説集『抗日戦区』(1959)、『抗日戦区2』(1960)を中心に(朝鮮語)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 朝鮮大学校学報	6. 最初と最後の頁 27-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪潤実	4. 巻 1
2. 論文標題 1950年代末における抗日革命闘士の典型の創造事業とその形象化の特徴について 短編小説集『抗日戦区』(1959), 『抗日戦区2』(1960)を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 科研費報告書「社会主義の文化的景観：DPRK、ソ連、中国」	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 喜多恵美子	4. 巻 34
2. 論文標題 北韓 朝鮮少年団の表象研究(朝鮮語)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文科学研究(韓国徳成女子大学人文科学研究所発行)	6. 最初と最後の頁 217-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31658/DSHR.34.8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 喜多恵美子	4. 巻 1
2. 論文標題 朝鮮少年団の表象研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 科研費報告書「社会主義の文化的景観：DPRK、ソ連、中国」	6. 最初と最後の頁 35-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福間 加容	4. 巻 1
2. 論文標題 研究ノート：再発見された朝鮮系ソ連人の画家ベン・ヴァルリヨン（1916 - 1990）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 科研費報告書「社会主義の文化的景観：DPRK、ソ連、中国」	6. 最初と最後の頁 103-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 32
2. 論文標題 研究ノート：銅像が示す地域性：戦国武将の銅像の事例から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際関係紀要	6. 最初と最後の頁 199-233
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高山陽子	4. 巻 10
2. 論文標題 エッセイ：銅像よもやま話10 座像	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際関係・多文化フォトジャーナル	6. 最初と最後の頁 20-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田しほ	4. 巻 54-9
2. 論文標題 国民化の欲望と戦争の記憶：女性兵士のノについてのナラティブ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 114-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田しほ	4. 巻 45
2. 論文標題 コメント「ソ連における社会主義的人間」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東欧史研究	6. 最初と最後の頁 102-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田しほ	4. 巻 1
2. 論文標題 モスクワ攻防戦の忘却と想起：戦地、銃後、首都における記憶の政治	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 科研費報告書「社会主義の文化的景観：DPRK、ソ連、中国」	6. 最初と最後の頁 69-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計56件（うち招待講演 16件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 喜多恵美子
2. 発表標題 労働現場における美術：1958-1959年の『朝鮮美術』の記事を中心に
3. 学会等名 人文科学研究所部門研究会（第6研究）2020年度第2回研究会 兼 科研費「冷戦期北朝鮮の文化史：人・情報の流動性に注目して」（20H01330）研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 喜多恵美子
2. 発表標題 朝鮮民主主義人民共和国美術における女性表象
3. 学会等名 朝鮮史研究会第57回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 喜多恵美子
2. 発表標題 朝鮮少年団の表象研究（朝鮮語）
3. 学会等名 徳成女子大学校人文科学研究所学術大会 「統一文化とコンテンツ」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 喜多恵美子
2. 発表標題 社会主義圏における少年の身体表象：少年団運動を中心に
3. 学会等名 第8回「文化としての社会主義」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 ソ連の戦争記念碑（人物像）のジェンダーと地域性：ニケ型記念碑分布の偏りについて
3. 学会等名 2021年度ロシア・東欧学会全国大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 独ソ戦の不都合な記憶：イ・グレーコワ『寡婦たちの船』の戦傷兵と不貞の妻を中心に
3. 学会等名 第8回「文化としての社会主義」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 旧ソ連における寓意的女性像の実態と比較
3. 学会等名 関西ジェンダー史カフェ（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 国民統合と記憶の分断：寓意的女性像「母なるロシア」をめぐって
3. 学会等名 山陰研究センター戦略PJ研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高山陽子
2. 発表標題 中国における労働者の身体表象
3. 学会等名 第8回「文化としての社会主義」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福間加容
2. 発表標題 La Japonaise and Japanese woman by Vereshchagin
3. 学会等名 Kharkiv State Academy of Design and Arts (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福間加容
2. 発表標題 "La Japonaise"
3. 学会等名 ICCEES X World Congress 2021 in Montreal "Bridging National and Global Perspective" (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金真美
2. 発表標題 朝鮮民主主義人民共和国の女性政策の変化と大衆歌謡に反映された女性像
3. 学会等名 2020統一人文世界フォーラム(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金真美
2. 発表標題 朝鮮民主主義人民共和国の女性政策の変化と大衆歌謡に反映された女性像
3. 学会等名 第6回「文化としての社会主義」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金真美
2. 発表標題 朝鮮民主主義人民共和国の戦時歌謡とその後の受容過程
3. 学会等名 朝鮮問題研究センター文化研究室文学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金真美
2. 発表標題 朝鮮民主主義人民共和国の戦時歌謡とその後の受容過程
3. 学会等名 梨の木ピースアカデミー（NPA）コース1 朝鮮戦争71年と日本社会への衝撃Part5（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 洪潤実
2. 発表標題 朝鮮労働党7回大会以降における共和国小説の特徴 『朝鮮文学』祝典賞受賞作品を中心に（朝鮮語）
3. 学会等名 統一人文学世界フォーラム学問後続世代学術大会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 洪潤実
2. 発表標題 朝鮮労働党七回大会以降の共和国小説における否定的人物の形象化とその意味：『朝鮮文学』祝典賞受賞小説を中心に
3. 学会等名 第6回「文化としての社会主義」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 洪潤実
2. 発表標題 1950年代末における抗日パルチザンの典型的創造事業と形象的特徴 短編小説集『抗日戦区』（1959）を中心に（朝鮮語）
3. 学会等名 朝鮮問題研究センター文化研究室文学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高山陽子
2. 発表標題 銅像とは何か？
3. 学会等名 科研費基盤B「模する」技術の発展と伝統的習俗の変容についての学際的研究」（19H01359代表：野口直人）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 旧ソ連における 戦死者記念碑について：モスクワ攻防戦を中心に
3. 学会等名 ソビエト史研究会2019年度年次大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金真美
2. 発表標題 在日朝鮮人学生作文コンテスト入選作品を通して見る統一意識の特徴（言語：朝鮮語）
3. 学会等名 2019朝鮮半島研究国際学術討論会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 喜多恵美子
2. 発表標題 朝鮮の左翼美術の系譜と図像学的分析-千里馬時期の美術を中心に（言語：朝鮮語）
3. 学会等名 第14回コリア学国際学術討論会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 喜多恵美子
2. 発表標題 『統制』と『自由』のはざままで—キューバとDPRK
3. 学会等名 第6回 関西ジェンダー史カフェ「キューバの現代アートから考える」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朴桂利
2. 発表標題 白頭山作品を通じて見たDPRK美術の変化(言語:朝鮮語)
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第4回研究会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高山陽子
2. 発表標題 社会主義文化と儒教
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第5回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 喜多恵美子
2. 発表標題 産業と芸術:共和国美術を中心に
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第5回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 スターリン期プロパガンダの女性イメージ
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第5回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金真美
2. 発表標題 DPRKの女性政策と「家族革命化」映画
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第5回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 洪潤実
2. 発表標題 DPRK文学の女性抗日革命闘士イメージ：表象と構成形成から読み取れるもの
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第5回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 洪潤実
2. 発表標題 DPRKの抗日パルチザン闘士についての文学
3. 学会等名 第三回「文化としての社会主義」研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高山陽子
2. 発表標題 人を燃す：銅像と蠟人形
3. 学会等名 「模する」技術の発展と伝統的習俗の変容についての学際的研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高山陽子
2. 発表標題 記憶のメディアとしての銅像：中国の解放記念碑の事例を中心に
3. 学会等名 メディア人類学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高山陽子
2. 発表標題 社会主義プロパガンダ芸術における模範と再模範：毛沢東様式の事例から
3. 学会等名 研究会「規範と模範：東北アジア地域における近代化と社会共生」（平成30年度東北大学東北アジア研究センター公募型共同研究）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 喜多恵美子
2. 発表標題 南北朝鮮はおたがいをどう見ているかー美術を通してみる分断と統一
3. 学会等名 親鸞聖人御命日講和（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 喜多恵美子
2. 発表標題 南北分断と朝鮮民主主義人民共和国の美術
3. 学会等名 第4回 東京大学コリア・コロキウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 旧ソ連の記念碑における寓意的女性像：ロシア・南コーカサス・ウクライナの現状と比較考察
3. 学会等名 日本ロシア文学会第67回大会研究発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 ソヴェートの都市空間とモニュメント
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第二回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高山陽子
2. 発表標題 社会主義の記憶：中国の革命記念碑の事例を中心に
3. 学会等名 平成 29 年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「プロジェクト型」の共同研究「社会主義の記憶とノスタルジア：旧ソ連・東欧・中国・ベトナムの比較から」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高山陽子
2. 発表標題 中国における紅色文化:解放記念碑の事例を中心に
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第二回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金真美
2. 発表標題 朝鮮児童映画に現れる肯定的価値と対立的空間が意味するもの
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第二回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福間加容
2. 発表標題 帝政期ロシアのジャポニスム
3. 学会等名 ジャポニスム学会第7回畠山公開シンポジウム「二十世紀のジャポニスム:その波及と変容」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 喜多恵美子
2. 発表標題 植民地期から分断体制下までの韓国美術のながれ
3. 学会等名 朝鮮史研究会第54回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 喜多恵美子
2. 発表標題 日本におけるアヴァンギャルドの展開と歴史的観点
3. 学会等名 韓国美術史学研究会特別シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 喜多恵美子
2. 発表標題 大韓民国調査報告
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第二回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福間加容
2. 発表標題 ロシア連邦調査報告
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第二回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金真美
2. 発表標題 DPRK調査報告：記念碑的建築物を中心に
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第二回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 DPRK調査報告
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第二回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金真美
2. 発表標題 ベク・ナンリョンの中編小説『友』を語る（書評）
3. 学会等名 朝大文学カフェ「文学芸術からみるDPRK」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 洪潤実
2. 発表標題 DPRK小説が描く朝鮮戦争とその変化
3. 学会等名 第九回「文化としての社会主義」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 モスクワと独ソ戦の記憶：戦地、銃後、首都における忘却と想起
3. 学会等名 第九回「文化としての社会主義」研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 洪潤実
2. 発表標題 1950年代末の抗日革命闘士の典型創造事業と形象的特徴について：短編小説集『抗日戦区』(1959)、『抗日戦区2』(1960)を中心に
3. 学会等名 朝鮮問題研究センター文化研究室文学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 洪潤実
2. 発表標題 共和国（朝鮮）の小説からみた祖国解放戦争
3. 学会等名 新時代アジアピースアカデミー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 洪潤実
2. 発表標題 共和国（朝鮮）の小説からみた祖国解放戦争（その2）
3. 学会等名 新時代アジアピースアカデミー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高山陽子
2. 発表標題 現代日本における銅像の地域性：武将とキャラクター銅像の事例を中心に
3. 学会等名 仙人の会4月例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 (講演)独ソ戦とウクライナ
3. 学会等名 いま、だからこそロシアをディープに知る講座(主催:戦後史会議・松江、共催:ロシア理解講座)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 (講演)ウクライナ戦争について
3. 学会等名 島根県教職員組合教育研究集会特設分科会「平和な未来を子どもたちに(招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 中村唯史、坂庭淳史、小椋彩編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 ロシア文学からの旅(前田しほ担当箇所「戦争は女の顔をしていない」(126-127頁))	

1. 著者名 越野 剛、高山 陽子共編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 250
3. 書名 紅い戦争のメモリスケープ(高山陽子担当:序論 紅い戦争のメモリスケープ:ソ連・東欧・中国・ベトナム、第6章 中国における紅い英雄:メモリスケープとしての烈士陵园の分析を通して、前田しほ担当:第3章 ソヴィエト・ロシアのプロパガンダにおける女性図像と象徴性:社会主義国家の建設から総力戦体制へ)	

1. 著者名 沼野 充義、望月 哲男、池田 嘉郎共編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 886
3. 書名 ロシア文化事典（前田しほ担当：「記念碑」、「キャビアと前菜（ザクースカ）」、「スイーツいろいろ」、福間加容担当：「彫刻」、「越境する美術シャガールとカンディンスキー」、「エルミタージュ美術館」、「トレチャコフ美術館」）	

1. 著者名 石坂 浩一編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 北朝鮮を知るための55章【第2版】（喜多恵美子担当：「新しい『朝鮮画』」）	

1. 著者名 建国大学校 統一人文学研究団	4. 発行年 2018年
2. 出版社 図書出版 シンクスマート	5. 総ページ数 394
3. 書名 大衆文化からみる歴史的トラウマの治癒 歌謡の中の統一人文学(金真美担当：「世代を超え歌った闘争の歌、尊厳を求めた解放の歌」(134-160)	

1. 著者名 石坂 浩一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 北朝鮮を知るための55章【第2版】（喜多恵美子担当：「新しい「朝鮮画」 主体美論の実践」pp.237-241.）	

1. 著者名 高山陽子編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 232
3. 書名 多文化時代の観光学：フィールドワークからのアプローチ（担当：「はじめに」「第1章」「第2章」「第3章」「第4章」「おわりに」）	

1. 著者名 高山陽子編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 228
3. 書名 フォビアがいっぱい	

1. 著者名 徳成女子大学校人文科学研究所編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学研文化社（韓国）	5. 総ページ数 285
3. 書名 美術で南北対話（「DPRK美術作品に表現された朝鮮少年団の位相」（57 - 59頁）を喜多恵美子担当） （朝鮮語）	

1. 著者名 高山 陽子、山口 睦編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 320
3. 書名 規範と模範	

1. 著者名 中村唯史、坂庭 淳史、小椋 彩	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 ロシア文学からの旅（前田しほ担当：「スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ」（126-127頁））	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高山 陽子 (Takayama Yoko) (20447147)	亜細亜大学・国際関係学部・教授 (32602)	
研究分担者	喜多 恵美子 (Kida Emiko) (30410971)	大谷大学・国際学部・教授 (34301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	金 真美 (Kim Chinmi)	朝鮮大学校・准教授	
研究協力者	洪 潤実 (Hong Yunsil)	朝鮮大学校・助教	
研究協力者	福間 加容 (Fukuma Kayo)	九州産業大学・学芸員	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	朴 桂利 (Park Carey)	大韓民国統一部統一教育院・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 第4回「文化としての社会主義」研究会	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 第7回「文化としての社会主義」研究会	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関